

2021年6月期 第3四半期 決算説明資料

株式会社エンビプロ・ホールディングス
2021年5月14日



目次

1. 第3四半期 決算概要
2. 2021年6月期 見通し
3. 中長期の取り組み
4. 配当方針
5. 参考資料

1. 第3四半期 決算概要

第3四半期（累計） ハイライト

連結業績

売上高	26,874百万円	(前年同期比 1.5%減)
営業利益	1,250百万円	(前年同期比 39.9%増)
経常利益	1,467百万円	(前年同期比 42.9%増)
税金等調整前四半期純利益	1,050百万円	(前年同期比 5.1%減)
<u>四半期純利益</u>	686百万円	(前年同期比 8.6%減)

主要TOPICS

- 前会計年度末24,500円から当第3四期末41,000円、第3四半期累計期間の平均価格は32,231円と前年同期の23,607円を上回って推移
- 金、銀、銅、アルミ、ニッケルの平均価格も前年同期を上回って推移
- 廃棄物処理受託価格の是正による収益性向上
- LIBリサイクル事業は大手電池メーカーとの取引がスタートし、集荷・生産・分析・販売体制の整備が進捗 但し経常損失1億円
- 世界的な輸送用コンテナ不足を背景とした貨物船の需給逼迫、海上運賃の高騰
- LIBリサイクル事業の収益計画を見直し、437百万円の減損損失（特別損失）を計上
- 設備投資3.2億円（検収ベース）
- 脱炭素社会への動きに関連して、CO₂排出低減効果から鉄スクラップ活用の評価が向上

※四半期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益

※LIB：リチウムイオン二次電池

（金額、数量は切り捨て表示：％は四捨五入表示）

連結損益計算書概要



(単位：百万円)

	2020年6月期 第3四半期累計	2021年6月期 第3四半期累計	前年同期比	
	実績	実績	増減額	増減率
売上高	27,294	26,874	▲ 419	▲ 1.5%
売上総利益	5,515	5,536	21	0.4%
営業利益	894	1,250	356	39.9%
経常利益	1,026	1,467	440	42.9%
税金等調整前四半期純利益	1,106	1,050	▲ 56	▲ 5.1%
四半期純利益※	750	686	▲ 64	▲ 8.6%
限界利益※	5,267	5,503	236	4.5%
EBITDA※	1,313	1,814	501	38.2%
純粋固定費※	4,362	4,269	▲ 92	▲ 2.1%

※四半期純利益：親会社株主に帰属する四半期純利益

※限界利益＝売上高－変動費

※EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却

※純粋固定費＝【売上原価・販管費・営業外費用の固定費相当分】－【為替差益・持分利益を除いた営業外収益分】

セグメント別業績概要

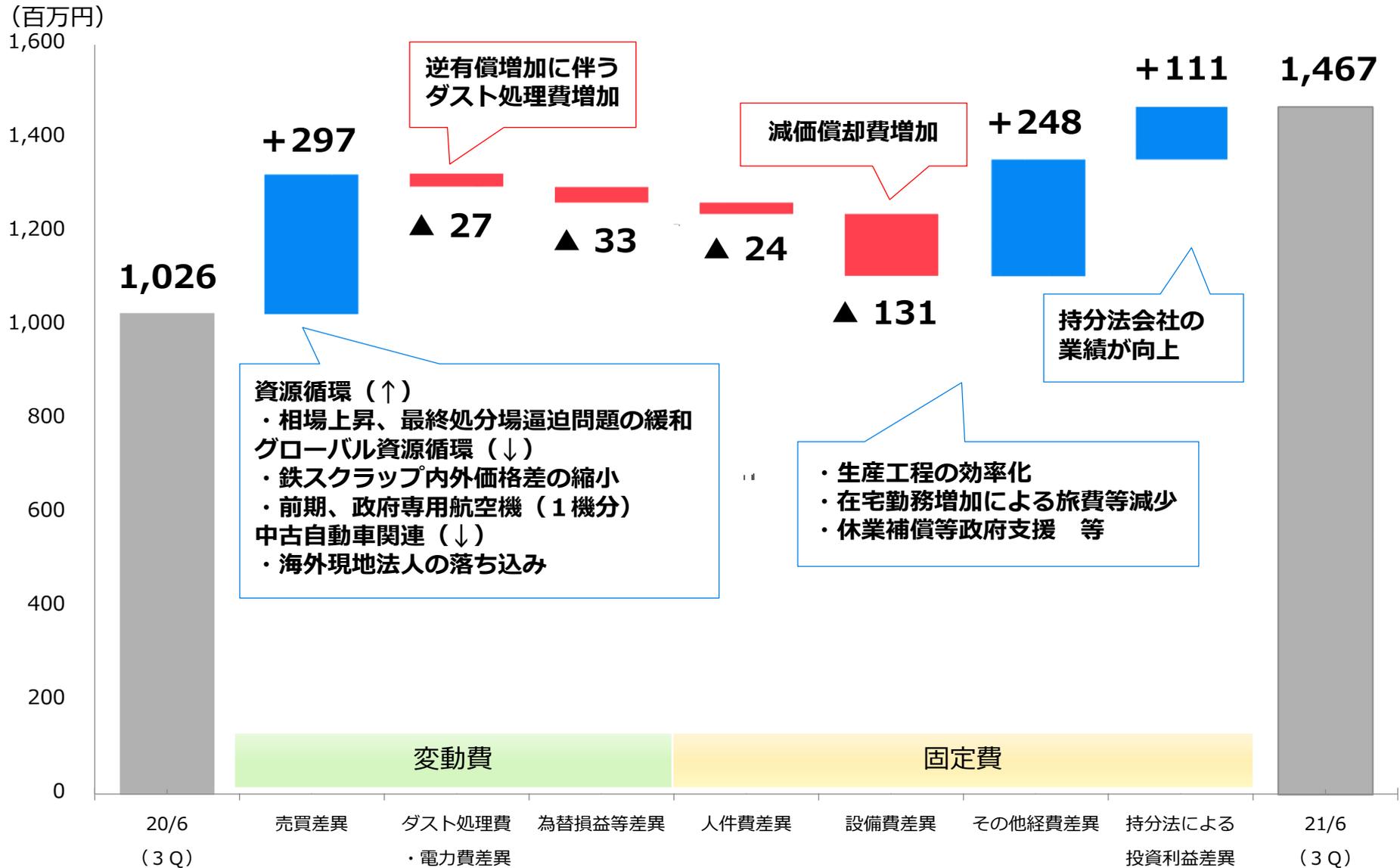


(単位：百万円)

売上高	2020年6月期 第3四半期累計	2021年6月期 第3四半期累計		構成比
	実績	実績	増減率	
連結	27,294	26,874	▲ 1.5%	100.0%
資源循環事業	8,609	9,822	14.1%	32.8%
グローバル資源循環事業	16,067	15,793	▲ 1.7%	52.8%
中古自動車関連事業	4,824	4,034	▲ 16.4%	13.5%
その他	222	267	20.1%	0.9%
調整額	▲ 2,429	▲ 3,043	-	-

セグメント利益	2020年6月期 第3四半期累計	2021年6月期 第3四半期累計		構成比
	実績	実績	増減率	
連結	1,026	1,467	42.9%	100.0%
資源循環事業	458	1,252	173.1%	71.5%
グローバル資源循環事業	571	357	▲ 37.5%	20.4%
中古自動車関連事業	83	71	▲ 14.7%	4.1%
その他	22	70	213.8%	4.0%
調整額	▲ 109	▲ 283	-	-

連結経常利益差異分析（前年同期比）



連結貸借対照表概要



(単位：百万円)

	2020年 3月末	2020年 6月末	2021年 3月末	前期末比 増減額		2020年 3月末	2020年 6月末	2021年 3月末	前期末比 増減額
流動資産	11,221	16,529	18,342	1,812	流動負債	5,871	7,499	9,013	1,514
固定資産	9,226	9,383	9,184	▲ 199	固定負債	2,441	6,401	5,748	▲ 652
(有形固定資産)	6,558	6,729	6,009	▲ 719	負債合計	8,313	13,900	14,762	861
(無形固定資産)	75	70	63	▲ 7	純資産	12,135	12,012	12,764	752
(投資その他の資産)	2,592	2,584	3,111	527	(自己資本)	11,778	11,654	12,392	737
資産合計	20,448	25,913	27,526	1,613	負債純資産合計	20,448	25,913	27,526	1,613

主要TOPICS (前期末比)

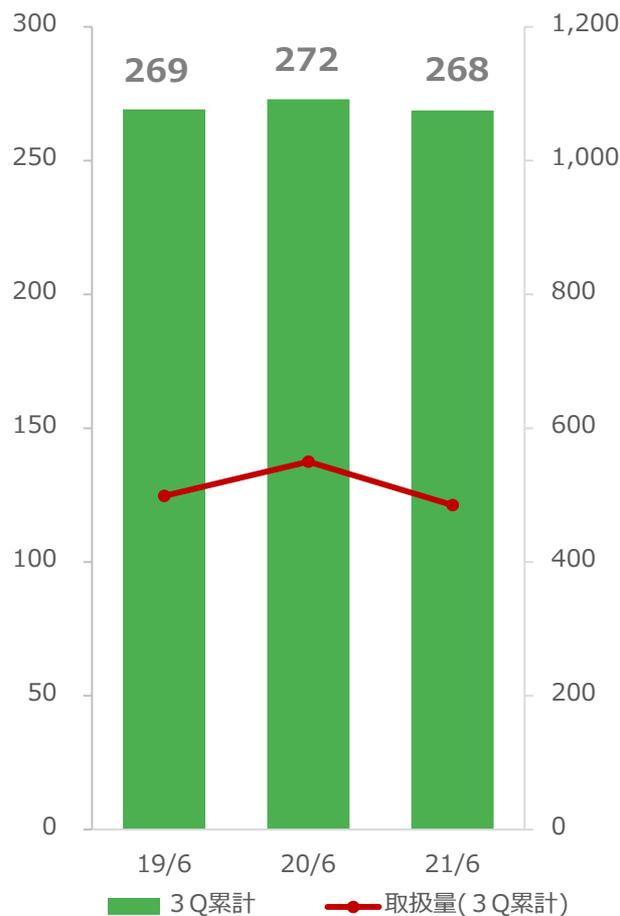
- 流動資産 (商品及び製品1,993百万円、受取手形及び売掛金1,650百万円、現金及び預金▲2,124百万円)
- 固定資産 (投資有価証券465百万円、機械装置及び運搬具▲525百万円、建物及び構築物▲128百万円、建設仮勘定▲53百万円)
- 流動負債 (短期借入金830百万円、支払手形及び買掛金539百万円)
- 固定負債 (長期借入金▲696百万円)
- 自己資本比率 45.0% (2020年6月末 45.0%)

連結業績推移

売上高 (取扱量)

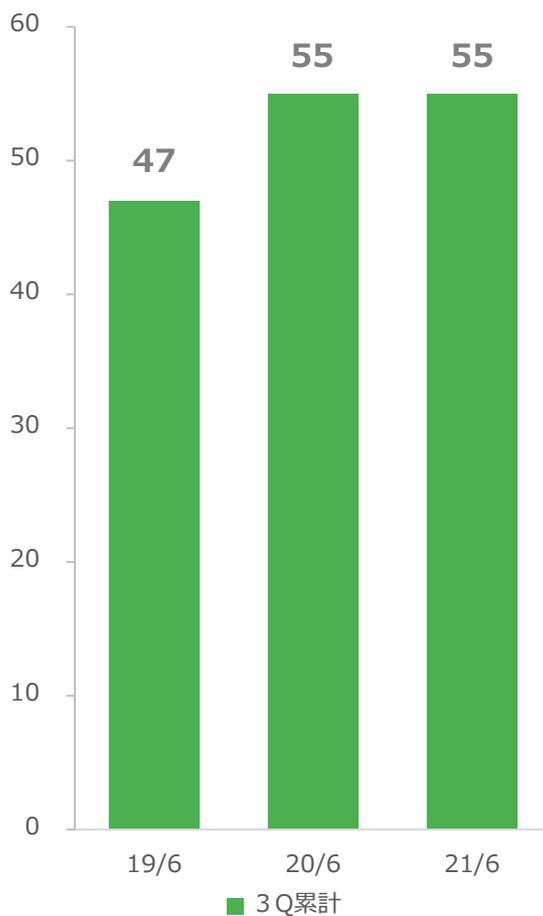
前年同期比
1.5%減

(単位：億円) (単位：千 t) (単位：億円)



売上総利益

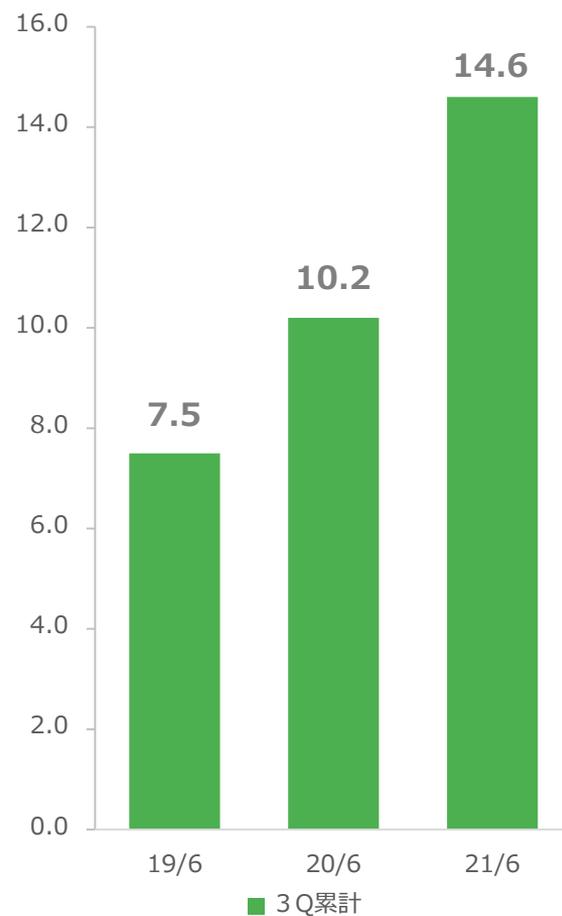
前年同期比
0.4%増



経常利益

前年同期比
42.9%増

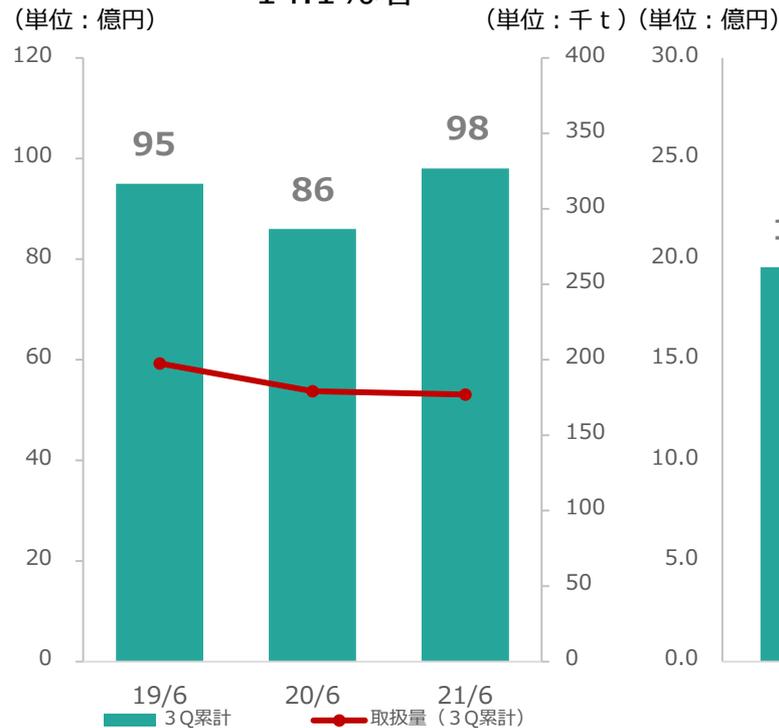
(単位：億円)



セグメント別業績推移【資源循環事業】

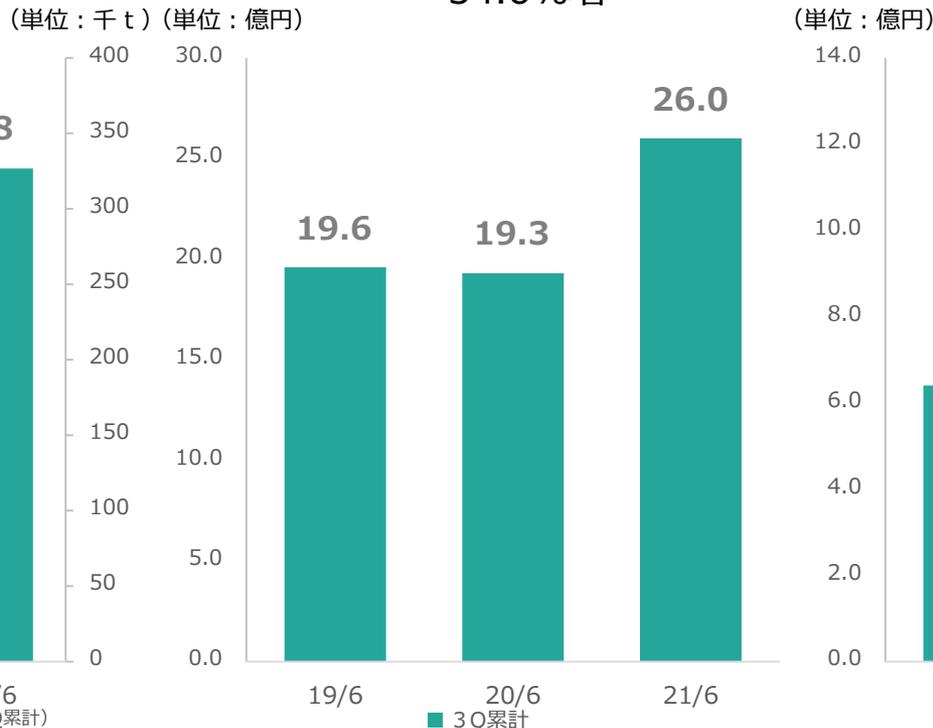
売上高（取扱量）

前年同期比
14.1%増



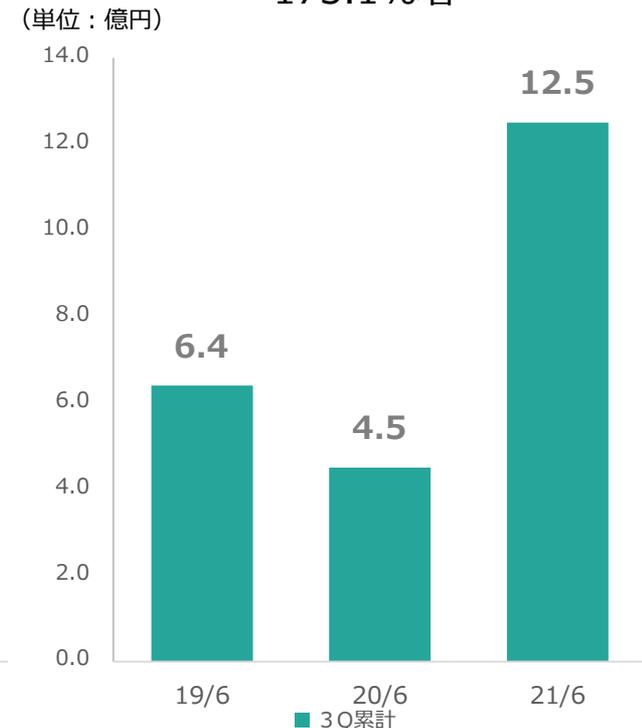
売上総利益

前年同期比
34.6%増



経常利益

前年同期比
173.1%増



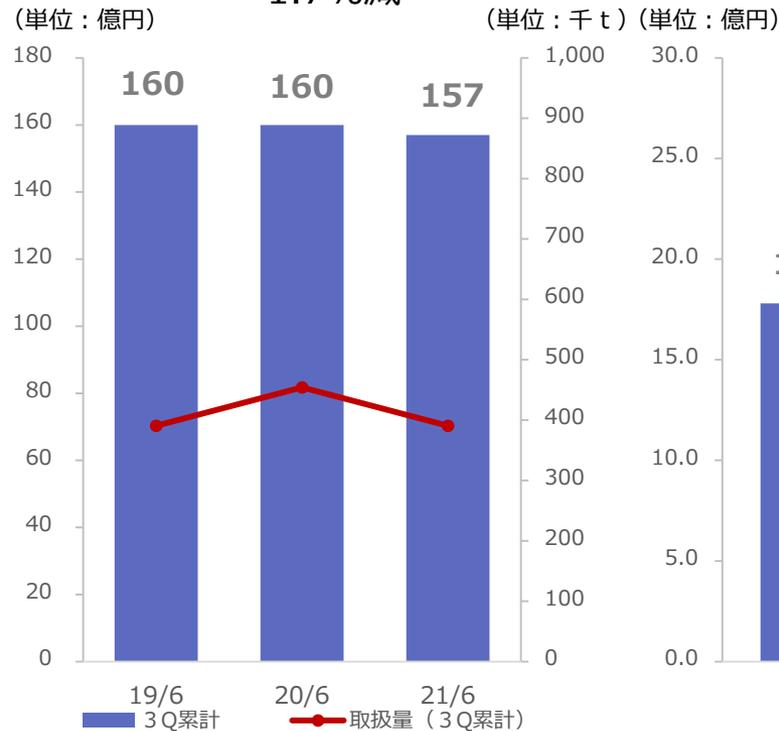
- 国内外の製造業における生産の持ち直しの動きから鋼材需要は堅調に推移。
- 鉄スクラップ、金、銀、銅、アルミ、ニッケルの平均価格は前年を上回って推移。
- 最終処分場の逼迫問題は廃棄物発生量の減少により緩和し、操業が安定。
- 廃棄物処理受託価格の是正の効果、生産工程の効率化により収益性を確保。
- 新規事業のLIBリサイクル関連の費用が先行（経常損失1億円）。取扱量は大手電池メーカーとの仕入契約締結、処分業許可を活用した処理受託量の確保により進捗。

※グラフは百万円未満を切り捨てて作成

セグメント別業績推移【グローバル資源循環事業】

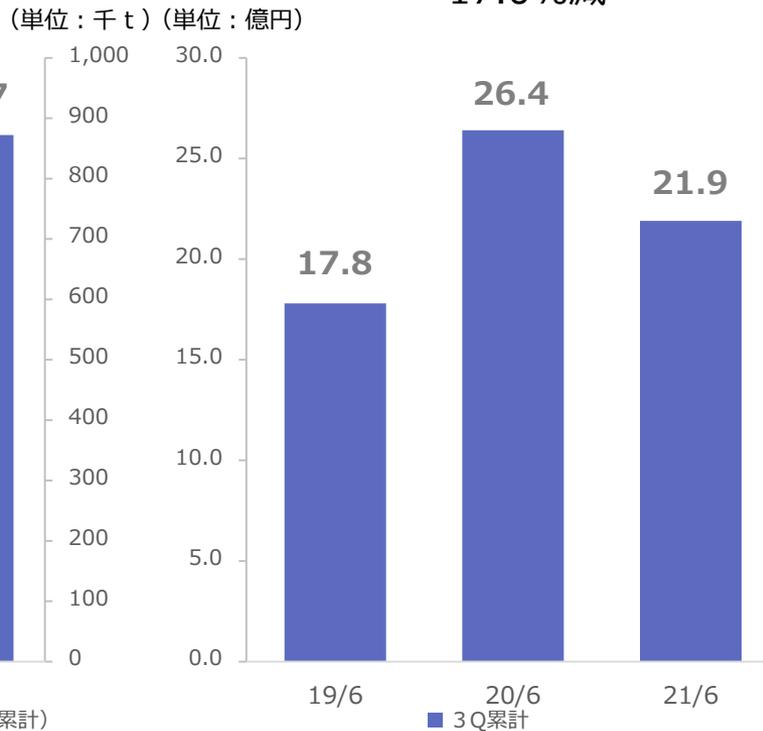
売上高（取扱量）

前年同期比
1.7%減



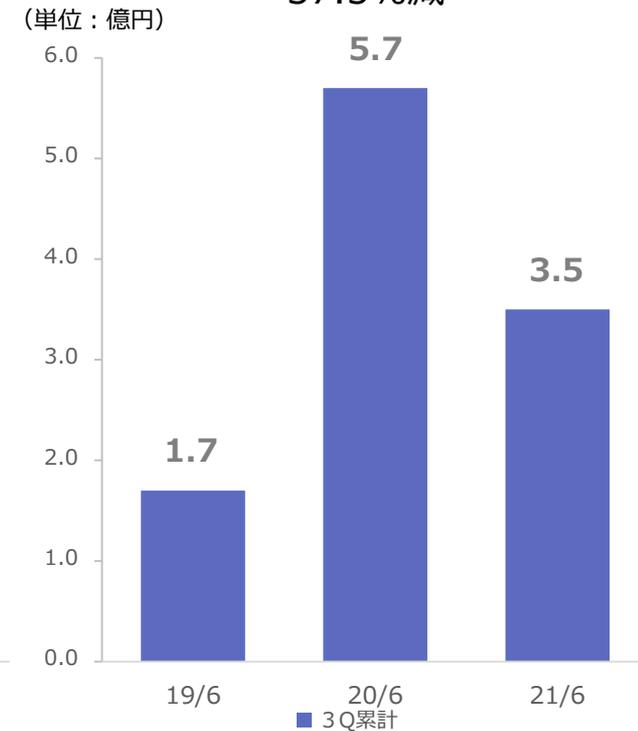
売上総利益

前年同期比
17.0%減



経常利益

前年同期比
37.5%減

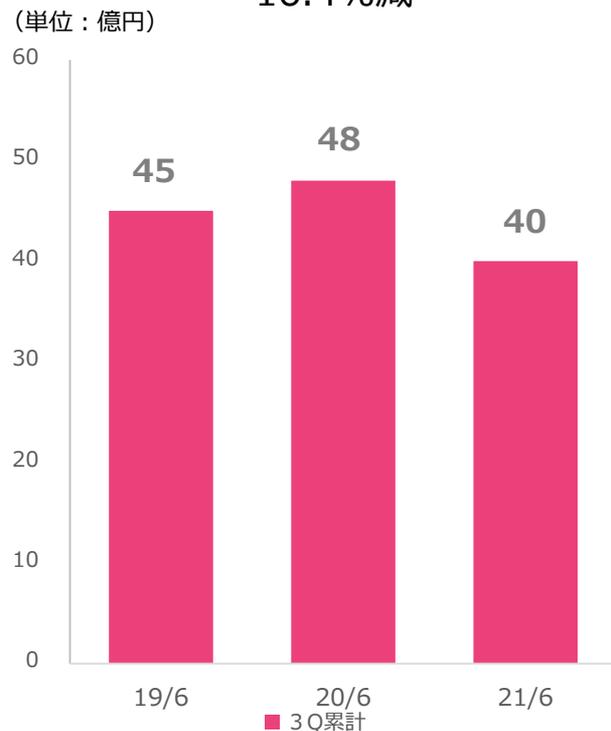


- 前年同期は政府専用航空機の販売による一時的な収益が発生。
- 輸送用コンテナ不足や海上運賃高騰による配船難により、海外向け商材の販売が難しい状況。
- 鉄スクラップ販売は取扱量が減少するも、価格の変動を活用した利益率の高い複数の販売契約を履行する等、収益を確保。
- 非鉄スクラップ販売は国内需要の取り込みにより、取扱量が増加し、収益に貢献。
- 新規事業のバイオマス燃料事業は市場拡大に向けた体制強化を継続。

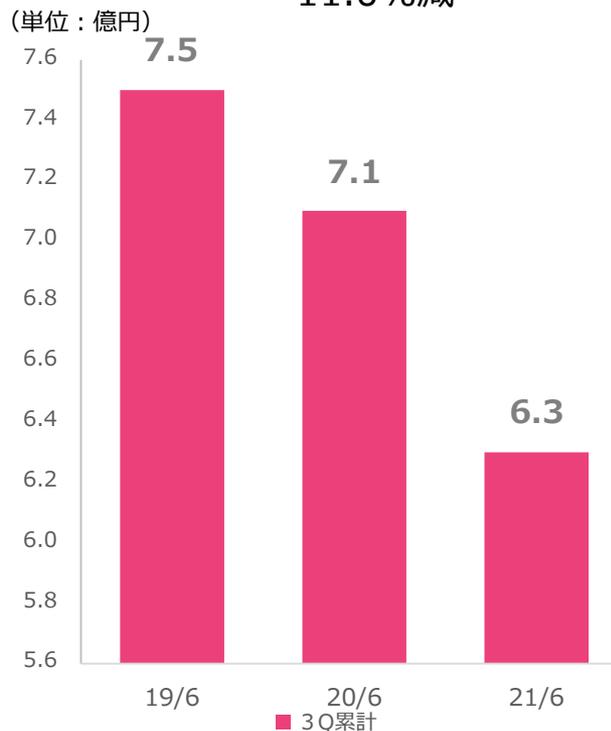
※グラフは百万円未満を切り捨てて作成

セグメント別業績推移【中古自動車関連事業】

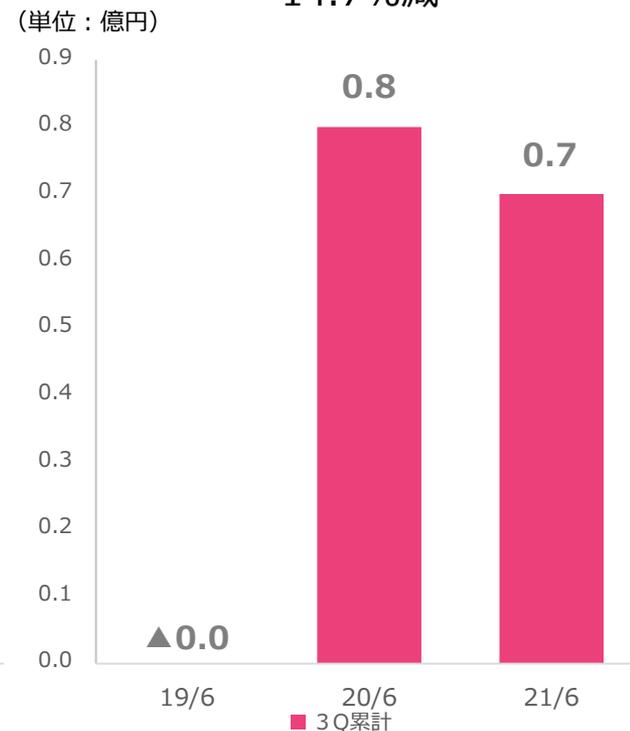
売上高 前年同期比 16.4%減



売上総利益 前年同期比 11.0%減



経常利益 前年同期比 14.7%減



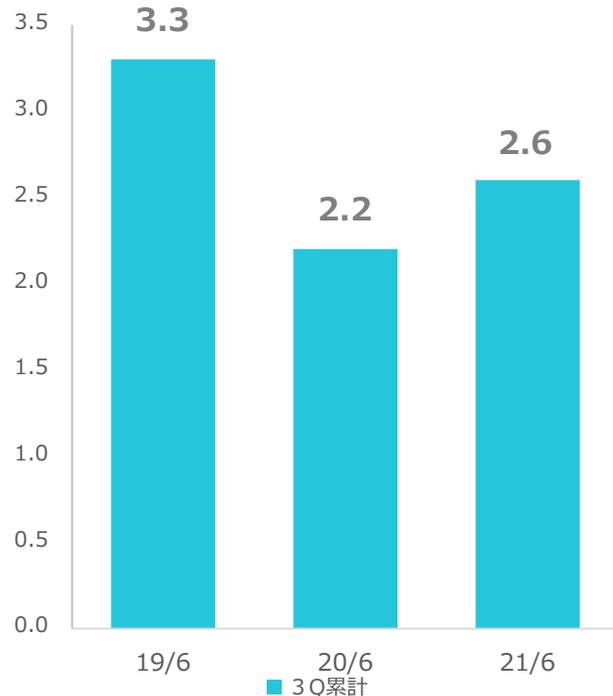
- 主要輸出先国の中古車需要の早期回復により、取扱量は当初想定を上回って推移。
- チリの一部地域のロックダウンが3月に再開。
- 前期好調であった東南アジア向け中古トラック部品の販売が減少。
- 物流代行サービスは、輸送用コンテナ不足により取扱量が減少するも、販売価格の調整により収益を確保。
- ヤード管理費等の見直し等による固定費の削減。

※グラフは百万円未満を切り捨てて作成

セグメント別業績推移【その他】

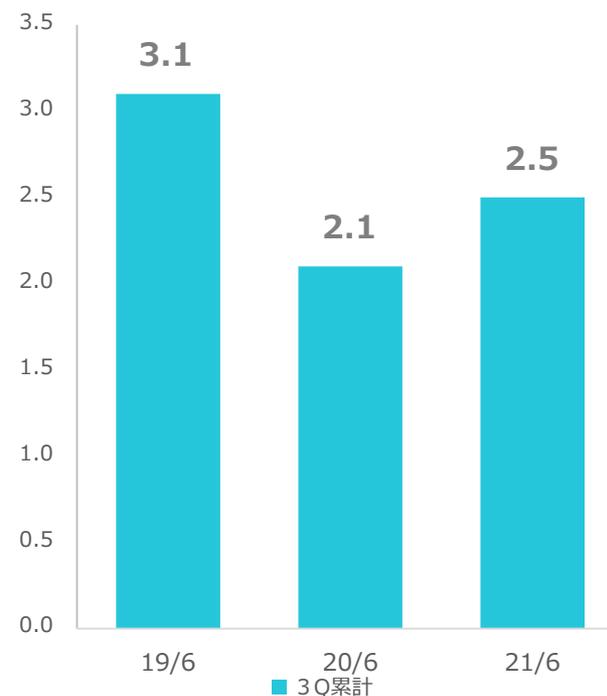
売上高
前年同期比
20.1%増

(単位：億円)



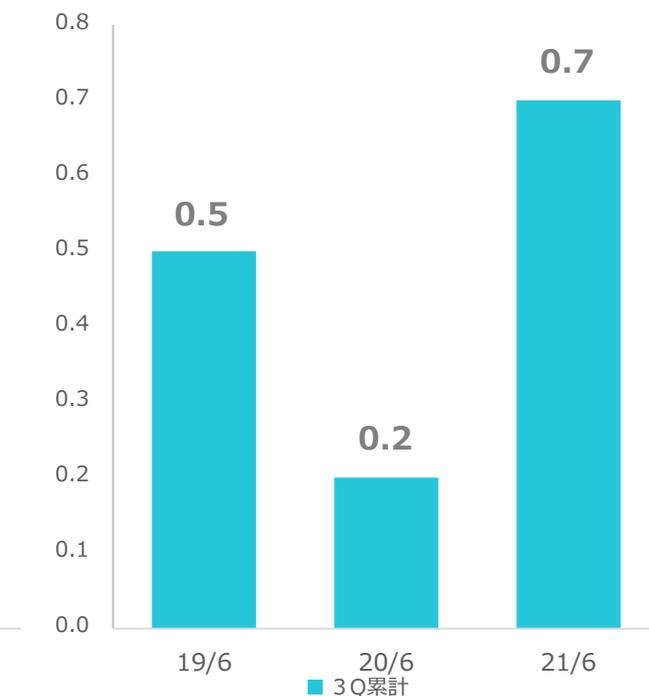
売上総利益
前年同期比
18.8%増

(単位：億円)



経常利益
前年同期比
213.8%増

(単位：億円)



《環境経営コンサルティング事業》

- CDP評価向上支援、カーボンニュートラル戦略立案及びTCFD対応支援等の継続受注により収益に貢献。サーキュラーエコノミー等のコンサルティングにも注力。

《障がい福祉サービス事業》

- 各事業所の利用率が堅調に推移し、前期を上回る収益を確保。

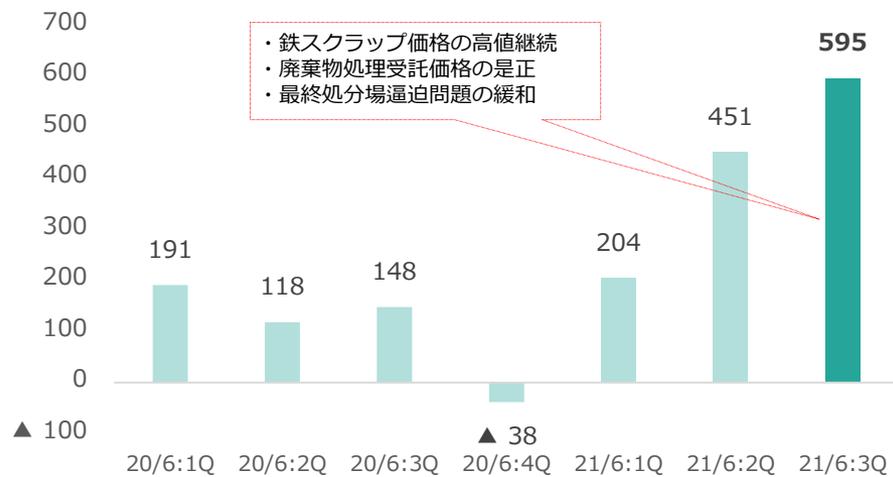
※グラフは百万円未満を切り捨てて作成

※その他には、2018年12月までの(株)E3を含む

セグメント利益四半期推移

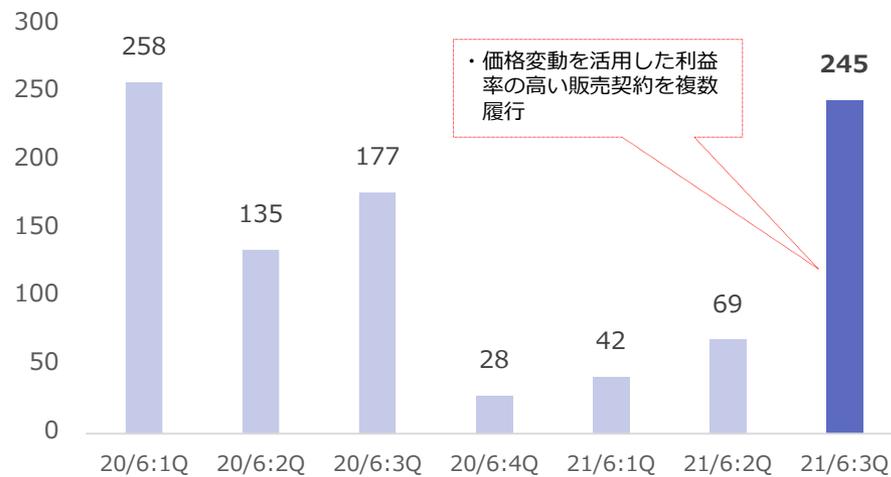
資源循環事業

(単位：百万円)



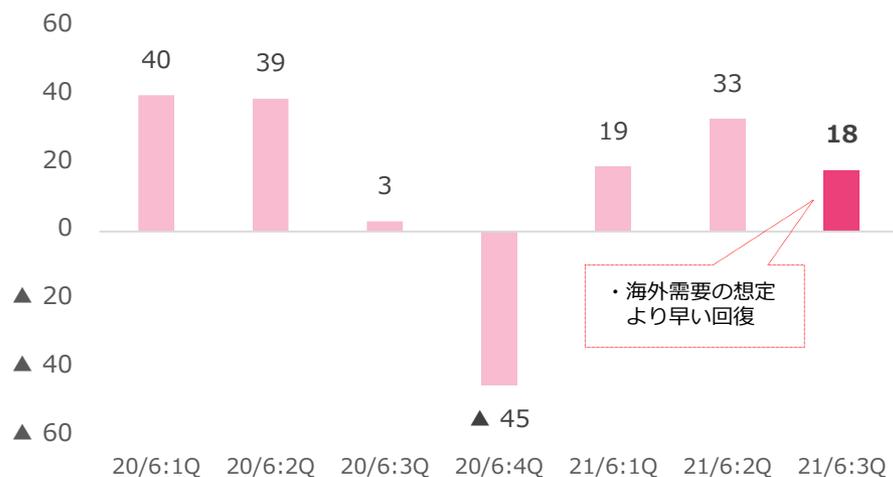
グローバル資源循環事業

(単位：百万円)



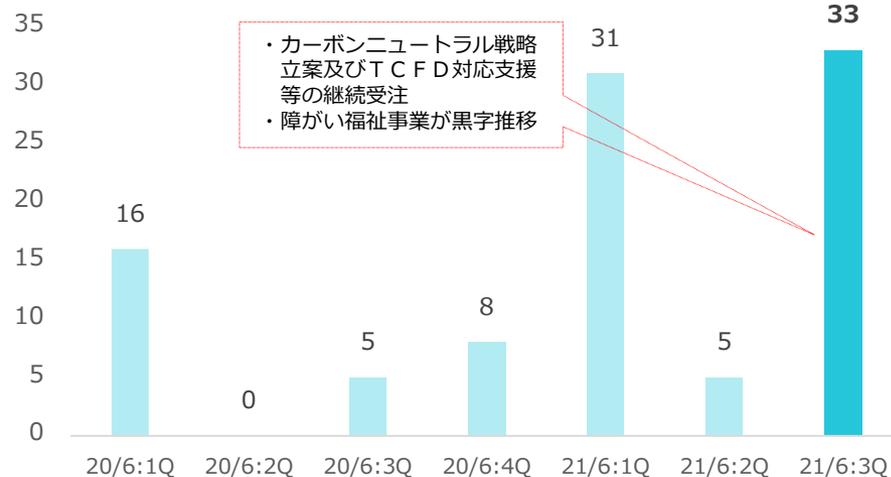
中古自動車関連事業

(単位：百万円)



その他

(単位：百万円)



2. 2021年6月期 見通し

2021年6月期連結業績見通し



前提条件

項目	1 Q期間平均	2 Q期間平均	3 Q期間平均	4 Q前提条件
鉄スクラップ	23,225円/t	30,438円/t	40,866円/t	40,000円/t (35,000円/t)
電気銅	732,800円/t	792,066円/t	936,733円/t	1,000,000円/t (750,000円/t)
金	6,549円/g	6,324円/g	6,158円/g	6,000円/g (6,000円/g)
銀	84,565円/kg	83,141円/kg	90,989円/kg	85,000円/kg (85,000円/kg)
ニッケル	1,682円/kg	1,839円/kg	2,039円/kg	1,850円/kg (1,850円/kg)
コバルト	3,487円/kg	3,620円/kg	5,123円/kg	5,000円/kg (3,500円/kg)
為替 (円/USD)	106円	104円	105円	108円 (100円)

※ (出所) 東京製鐵(株)、J X 金属(株)、IRuniverse(株)、日刊産業新聞、(株)三菱UFJ銀行

※ () 内、2月8日公表時の前提条件

2021年6月期連結業績見通し



連結業績予想

売上高	40,400百万円	(前年同期比 19.2%増)
営業利益	1,918百万円	(前年同期比 142.7%増)
経常利益	2,229百万円	(前年同期比 138.4%増)
税金等調整前当期純利益	1,908百万円	(前年同期比 107.7%増)
<u>当期純利益</u>	1,291百万円	(前年同期比 114.4%増)

主要TOPICS

- 鉄スクラップ、非鉄価格が前年同期を上回って推移、4Q期間も高値圏の継続を予想
- LIBリサイクル事業は電池メーカーとの取引と国内外の使用済み民生用電池の集荷量を拡大。またブラックサンド製造ラインの改造と破碎ラインの新設により、生産効率およびブラックサンドの品質を向上。通期の経常損失は90百万円に減少する見込み
- 廃棄物処理事業等金属スクラップ以外の収益基盤が確立
- 金銀滓の売上げ増加予想
- 大型解体・片付け案件由来の利益増加予想
- 生産性の向上と一般管理費見直しによる固定費削減の効果が継続
- コンテナ不足による流通上の阻害要因解消に時間がかかることを予想

※当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

※ブラックサンド：カーボンが含有されているコバルト、ニッケルの濃縮滓

※金銀滓：金、銀、銅、プラチナ、パラジウムの混合物

2021年6月期連結業績見通し



(単位：百万円)

	2020年6月期		2021年6月期				
	実績	前回予想	修正予想	前期比		前回予想比	
				増減額	増減率	増減額	増減率
売上高	33,879	35,700	40,400	6,520	19.2%	4,700	13.2%
売上総利益	6,861	7,011	8,318	1,457	21.2%	1,307	18.7%
営業利益	790	1,000	1,918	1,127	142.7%	918	91.8%
経常利益	934	1,250	2,229	1,294	138.4%	979	78.3%
税金等調整前 当期純利益	918	1,229	1,908	989	107.7%	678	55.2%
当期純利益※	602	870	1,291	688	114.4%	421	48.4%
限界利益※	6,632	6,914	7,748	1,115	16.8%	833	12.1%
EBITDA※	1,389	1,760	2,655	1,266	91.1%	894	50.8%
純粋固定費※	5,821	5,884	5,848	27	0.5%	▲ 35	▲0.6%
ROE	5.3%	7.3%	10.5%	5.2%	97.8%	3.2%	44.5%

※当期純利益：親会社株主に帰属する当期純利益

※限界利益＝売上高－変動費

※EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却

※純粋固定費＝【売上原価・販管費・営業外費用の固定費相当分】－【為替差益・持分利益を除いた営業外収益分】

2021年6月期セグメント別業績見通し



(単位：百万円)

売上高	2020年6月期		2021年6月期				
	実績	前回予想	修正予想	前期比		前回予想比	
				増減額	増減率	増減額	増減率
連結	33,879	35,700	40,400	6,520	19.2%	4,700	13.2%
資源循環事業	10,786	12,641	14,179	3,393	31.5%	1,538	12.2%
グローバル資源循環事業	20,108	21,684	24,805	4,696	23.4%	3,121	14.4%
中古自動車関連事業	5,683	5,053	5,577	▲ 106	▲ 1.9%	523	10.4%
その他	295	352	357	62	21.2%	5	1.4%
調整額	▲ 2,994	▲ 4,032	▲ 4,519	▲ 1,525	-	▲ 487	-

セグメント利益	2020年6月期		2021年6月期				
	実績	前回予想	修正予想	前期比		前回予想比	
				増減額	増減率	増減額	増減率
連結	934	1,250	2,229	1,294	138.4%	979	78.3%
資源循環事業	420	1,014	1,862	1,442	343.0%	848	83.6%
グローバル資源循環事業	600	349	535	▲ 64	▲ 10.8%	186	53.3%
中古自動車関連事業	38	81	103	65	169.7%	22	27.4%
その他	30	72	86	55	179.8%	13	19.0%
調整額	▲ 155	▲ 268	▲ 359	▲ 203	-	▲ 90	-

2021年6月期業績見通し 連結業績推移



売上高 (取扱量)

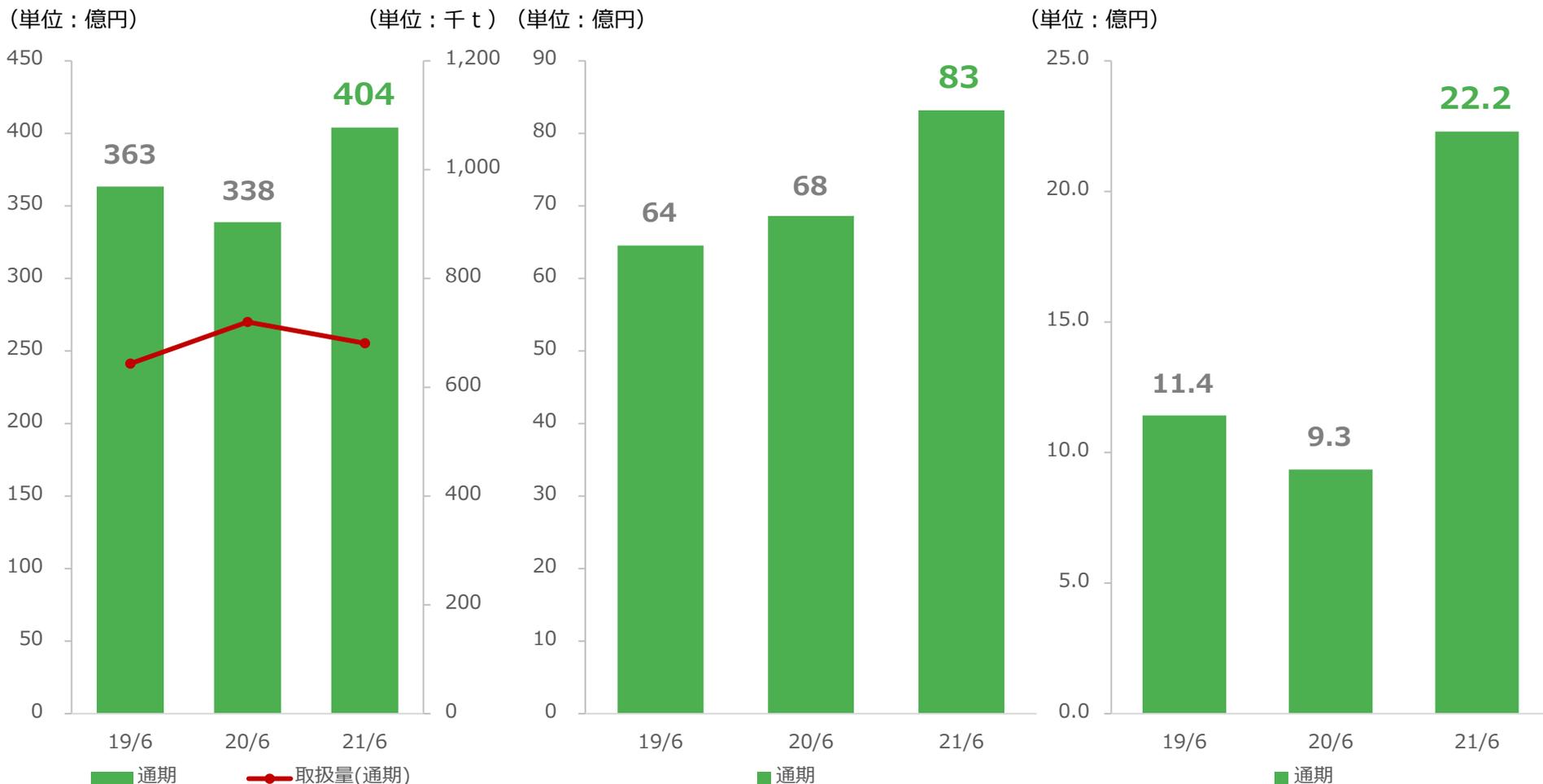
前年同期比
19.2%増

売上総利益

前年同期比
21.2%増

経常利益

前年同期比
138.4%増



3. 中長期の取り組み

- ① LIBリサイクルの取り組み強化
- ② カーボンニュートラルの取り組み
- ③ 企業価値について

①LIBリサイクルの取り組み強化

■ 減損損失の計上

対象会社	株式会社VOLTA（100%出資子会社）
減損損失額	437百万円
経緯	今後成長を加速させる上で、潜在的なリスクを先送りせず、改めて適正な収益計画への見直しを実施

■ 増資

対象会社	株式会社VOLTA（100%出資子会社）
増資金額	400百万円 （内訳：資本金200百万円、資本準備金200百万円）
増資後の資本金・ 資本準備金	800百万円 （内訳：資本金400百万円、資本準備金400百万円）
目的	①自己資本の増強による財務基盤の安定 ②LIBリサイクルの事業拡大に向けた既存工場の拡張 ③湿式製錬工場建設計画推進の資金

■ プロフェッショナル人材による推進体制

製錬、電池材料業界の経験・知識・ネットワークを有するプロフェッショナル人材をアドバイザーに迎え、湿式製錬プラント設置検討本格化

（参考）2021年5月14日公表

- ・業績予想、配当予想の修正（増額）及び減損損失の計上に関するお知らせ
- ・連結子会社（リチウムイオン電池リサイクル子会社）の増資に関するお知らせ

①LIBリサイクルの取り組み強化

急拡大する二次電池市場に対し、グループの経営資源を集中的に投入して、使用済み二次電池等からのレアメタル（ニッケル・コバルト等）回収事業を本格化する。

VOLTA 既存電池リサイクル設備

電極板リサイクルライン



BS製造ライン

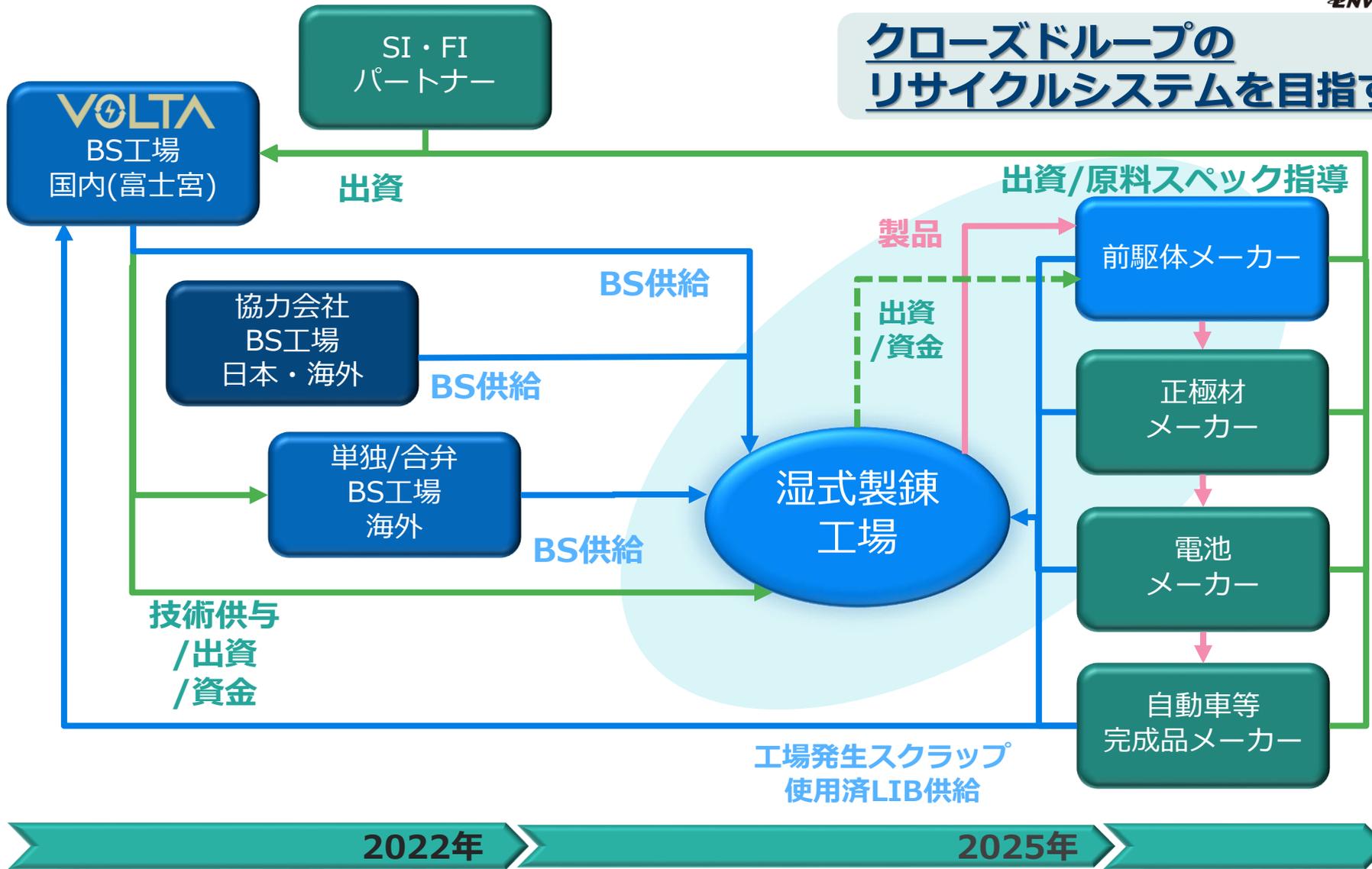


※LIB：リチウムイオン二次電池

※活物質：電池の電極材料で電気を起こす反応に関与する物質、活物質にはコバルト、ニッケル等が含有されている

※BS：ブラックサンド（カーボンが含有されているコバルト、ニッケル濃縮滓）

①LIBリサイクルの取り組み強化（電池to電池へのチャレンジ）



LIBリサイクルで協業できる会社（同業者、LIB製造メーカー等）と技術、資金、商材でアライアンスを組む

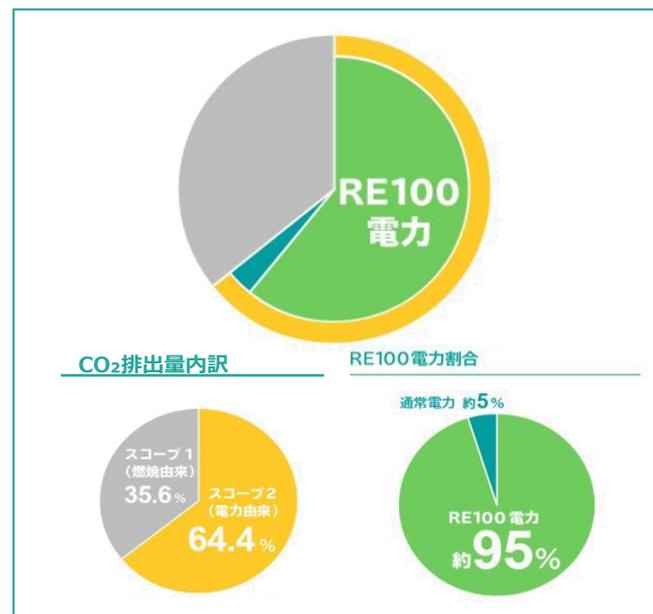
②カーボンニュートラルの取り組み

エンビプログループは2020年に、2050年カーボンニュートラルを宣言。グループの事業で使用するCO₂排出量の約70%は電力由来、RE100の推進により着実にCO₂排出量を削減する。

【2021年6月期 進捗状況】事業で使用する電力をRE100メニューへ切替実施

- ・2021年2月 (北海道) クロダリサイクル
- ・2021年3月 (長野) しんえこ
- ・2021年4月 (静岡) エコネコル・VOLTA

→ グループ全体でRE100 約95%達成
CO₂排出量削減 約60%達成



低炭素プロセスによる生産 → より低炭素な原材料、燃料の供給

エンビプログループは、各種使用済み製品等からの鉄・非鉄金属スクラップの選別・回収に加え、廃プラスチックや廃ゴム等を原料とする低炭素原燃料の製造・開発を積極的に推進していく。そして廃棄物由来の原燃料製品の普及を一層進めて、原料調達を含むライフサイクル全体でのCO₂排出量削減に貢献していく。

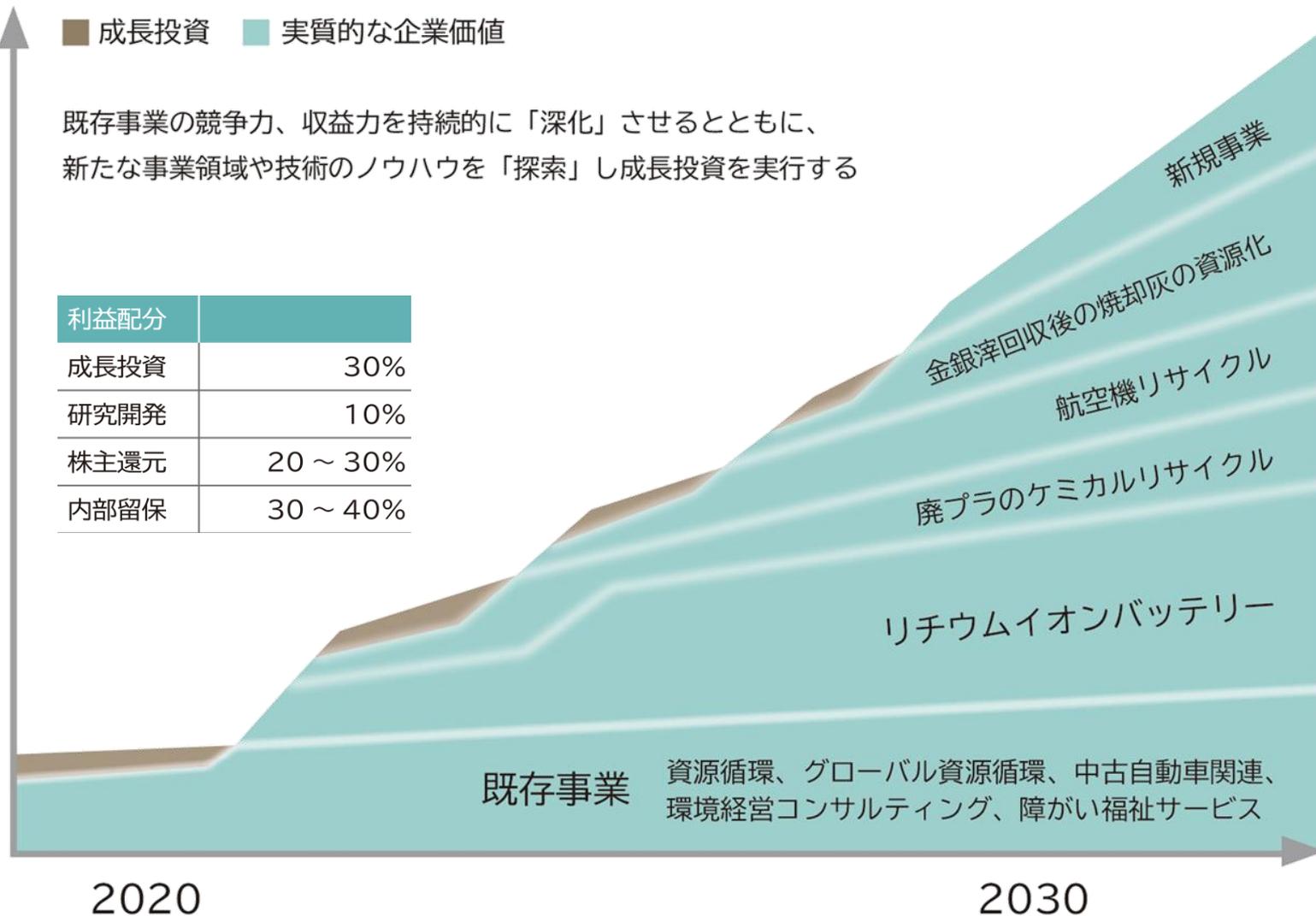
③企業価値について

■ 成長投資 ■ 実質的な企業価値

既存事業の競争力、収益力を持続的に「深化」させるとともに、
新たな事業領域や技術のノウハウを「探索」し成長投資を実行する

利益配分	
成長投資	30%
研究開発	10%
株主還元	20 ~ 30%
内部留保	30 ~ 40%

企業価値

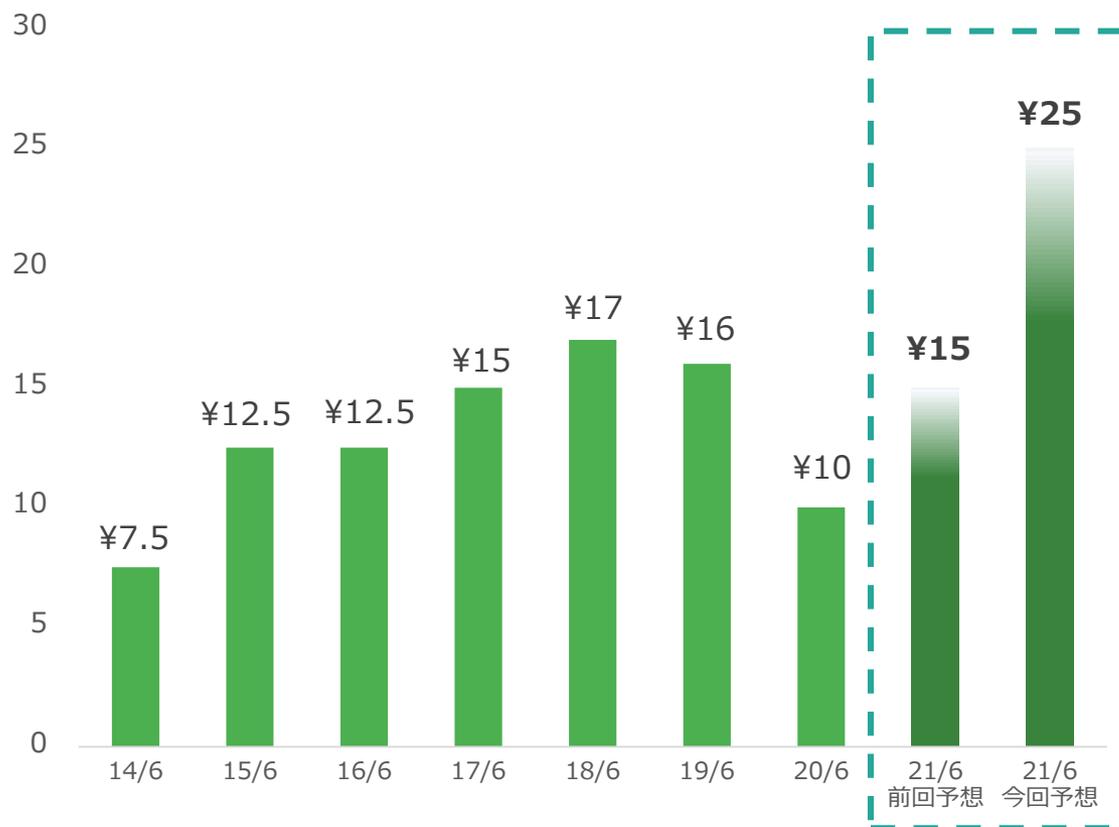


事業が安定するまでは、初期投資に見合う企業価値の上昇が見込めないため、企業価値の上昇は鈍化します。
茶色のエリアはそのマイナス分のギャップを表しています。

4. 配当方針

当社の配当基本方針

- 内部留保等を総合的に勘案しながら、長期的な視野に立ち、安定的かつ継続的な利益還元を行うことを基本方針とする。
- 業績連動利益配分の指標として連結配当性向 20~30%を目標とする。
- 連結配当性向に基づく配当金が年間 10 円を下回る場合にも、年間 10 円の安定配当を目指す。



配当予想 (増配) 修正

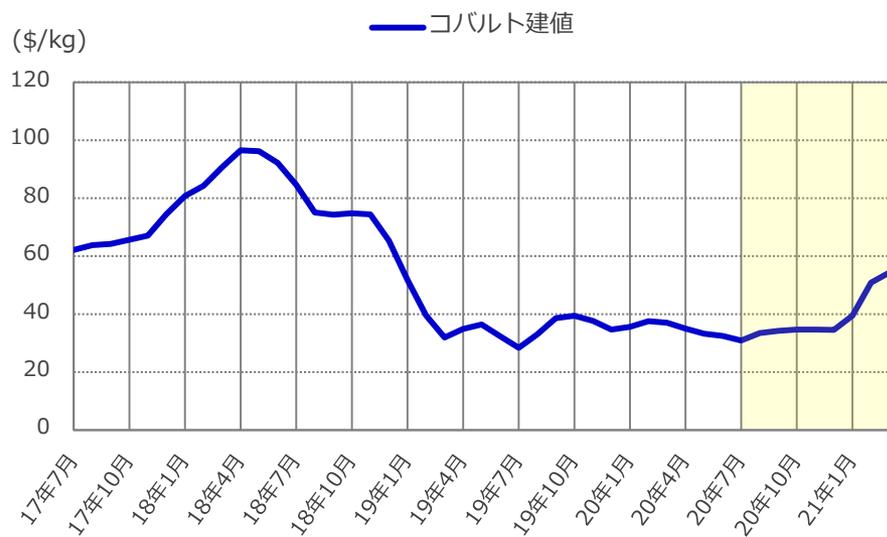
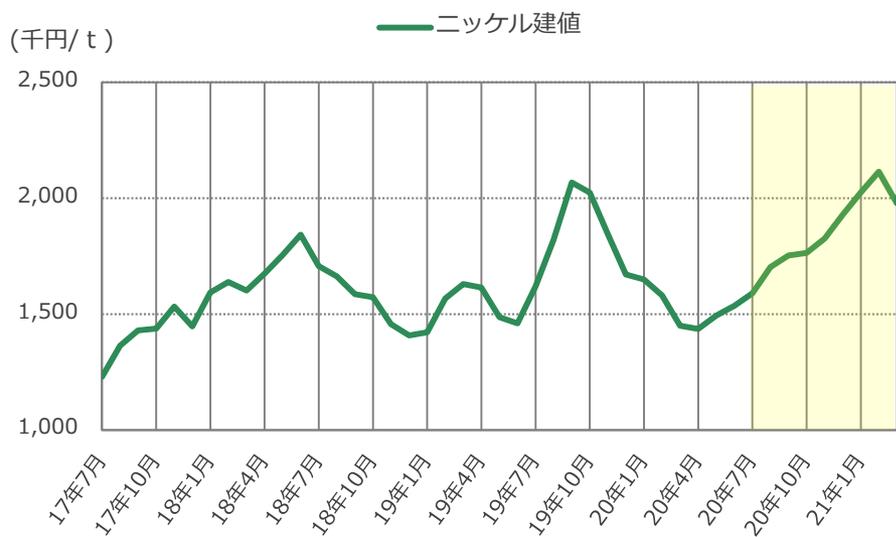
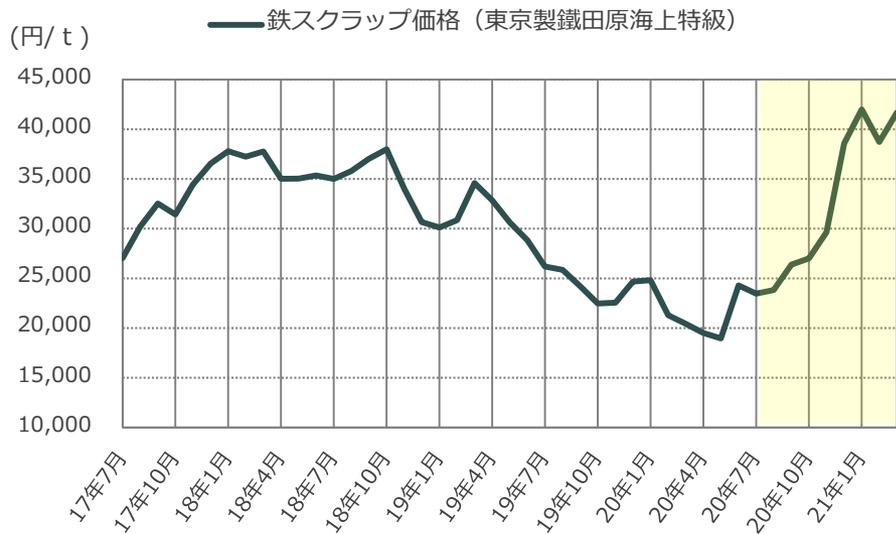
- ✓ 株主還元
- ✓ 過去最高益見込み

2021年6月期末配当予想
1株配当金 25円

※2018年1月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の株式分割を行っています。
1株当たり配当金は2014年6月期以前から株式分割が行われたと想定して算定しています。

5. 參考資料

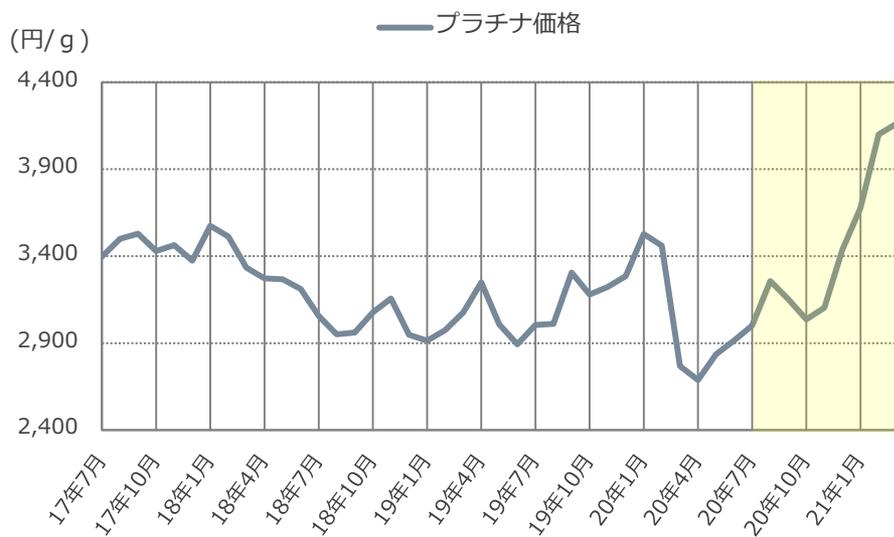
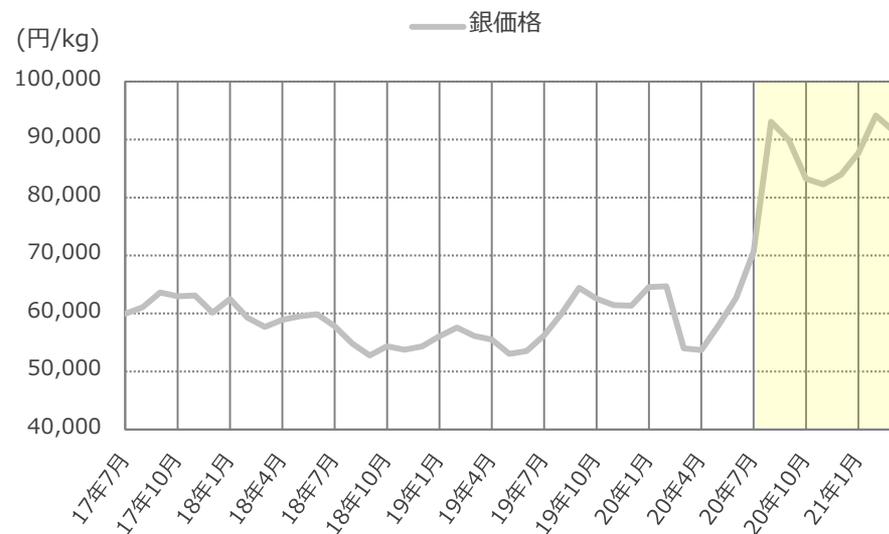
相場推移①



(出所) 東京製鐵(株)、日刊産業新聞

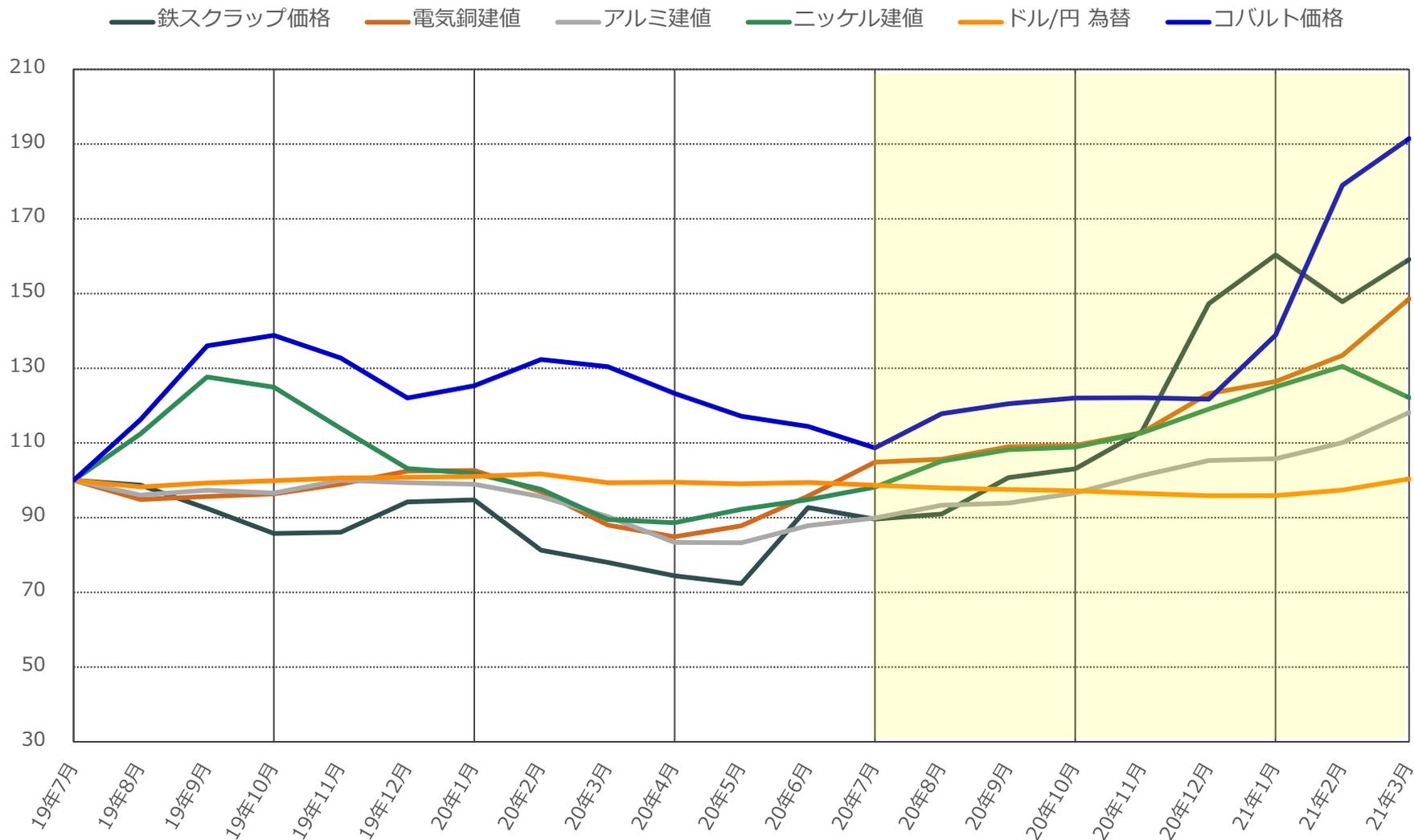
(出所) J X 金属(株)、IRuniverse(株)

相場推移②



相場推移③

金属相場の推移 (INDEX推移 2019年7月を100とする)



(出所) 東京製鐵(株)、J X 金属(株)、(株)日本経済新聞社、日刊産業新聞、IRuniverse(株)、(株)三菱UFJ銀行

- 本資料は投資家の参考に資するよう、株式会社エンビプロ・ホールディングスの現状を理解していただくために作成したものです。
- 本資料に記載された内容は、現時点において一般に認識されている経済・社会等の情勢及び弊社が合理的と判断した一定の前提に基づいて作成されておりますが、経営環境の変化等の事由により、予告なしに変更される可能性があります。

【本資料及びIRに関するお問い合わせ先】

株式会社エンビプロ・ホールディングス 経営企画部

TEL (0544) 21-3160

URL <https://www.envipro.jp/>